

2014年度 阿部県政スタート

報告書

(2014年4月4日～6日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

阿部守一長野県知事にとって、1期4年の最終となる2014年度県政がスタートした。10年8月に大接戦の知事選を勝ち抜いた阿部知事は、当協会調査で一貫して県民から80%を超える高い支持率を得てきた。4年前「確かな暮らし」「県民主権」「信州型事業仕分け」を志とした阿部県政は今、県民にどう映っているのか。

知事選まであと4カ月、1期の仕上げに入った阿部県政の柱「長野県総合5か年計画」（しあわせ信州創造プラン）をはじめとする課題や政治姿勢について、県民の意識と評価を探った。

◆調査の設計

▽調査対象	県内に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20代～70歳以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
▽調査方法	個別電話聞き取り・RDD（ランダム・デジット・ダイヤリング）法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
▽調査地点	19市9町6村
▽調査時期	2014年4月4日～6日
▽有効回答	815人（男性 373人 女性 442人）

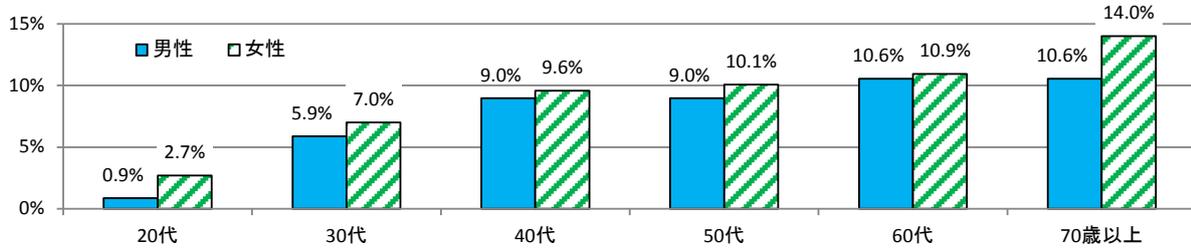
<注>

- ①報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。
- ②文中のパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。ただし知事の支持率は小数点第1位まで表記した。

◆サンプルの内訳

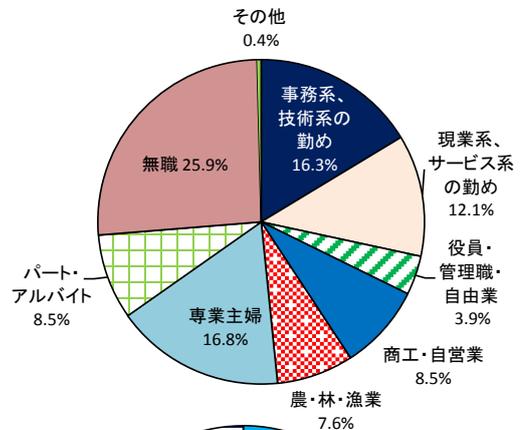
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	815	29	105	151	155	175	200
	100.0%	3.6%	12.9%	18.5%	19.0%	21.5%	24.5%
男性	373	7	48	73	73	86	86
	45.8%	0.9%	5.9%	9.0%	9.0%	10.6%	10.6%
女性	442	22	57	78	82	89	114
	54.2%	2.7%	7.0%	9.6%	10.1%	10.9%	14.0%



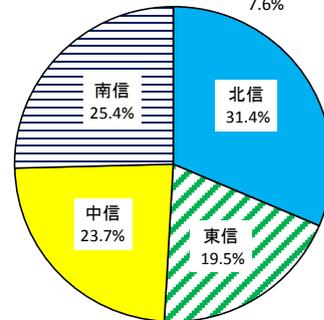
【職業】

事務系、技術系の勤め	133	16.3%
現業系、サービス系の勤め	99	12.1%
役員・管理職・自由業	32	3.9%
商工・自営業	69	8.5%
農・林・漁業	62	7.6%
専業主婦	137	16.8%
パート・アルバイト	69	8.5%
学生	-	-
無職	211	25.9%
その他	3	0.4%



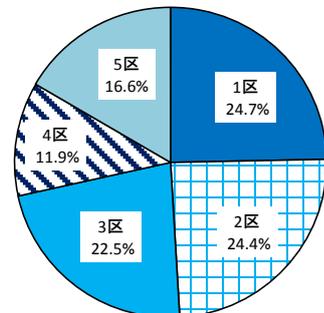
【地域】

北信	256	31.4%
東信	159	19.5%
中信	193	23.7%
南信	207	25.4%



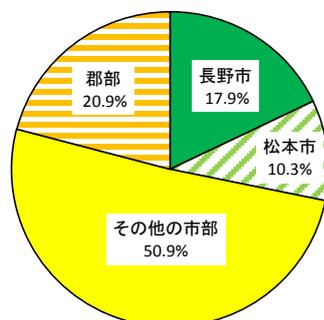
【選挙区】

1区	201	24.7%
2区	199	24.4%
3区	183	22.5%
4区	97	11.9%
5区	135	16.6%



【市郡】

長野市	146	17.9%
松本市	84	10.3%
その他の市部	415	50.9%
郡部	170	20.9%



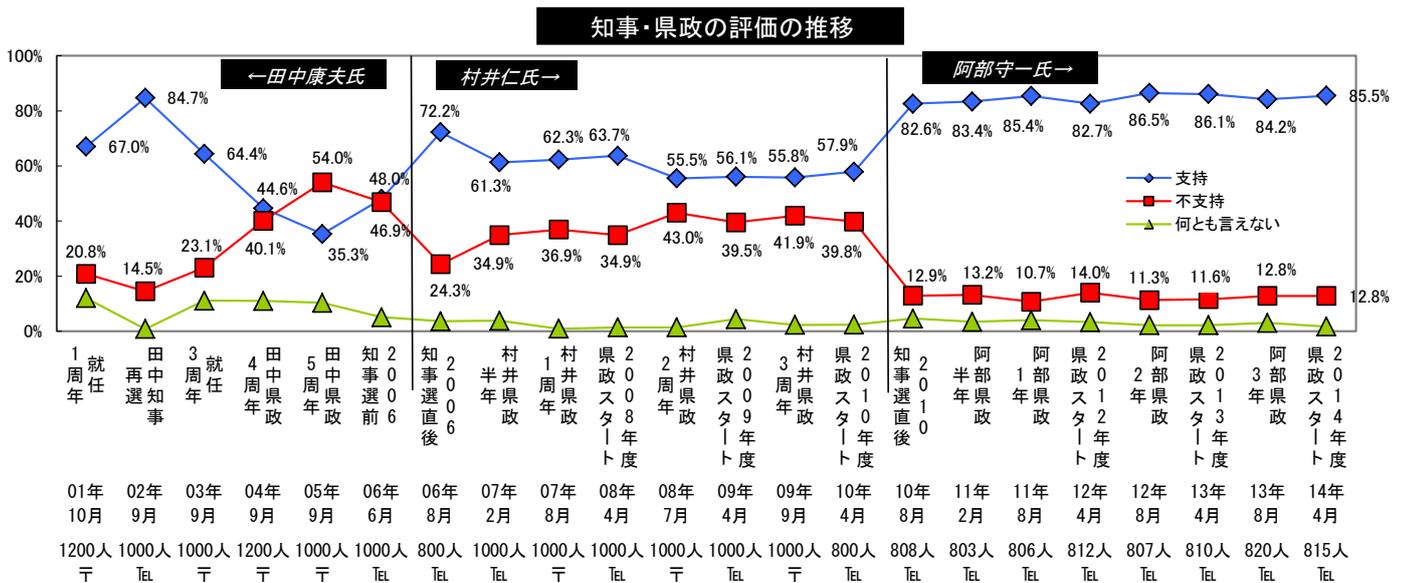
II 調査のポイント

◆阿部知事の支持率 85.5%、県立大学には賛否二分

長野県政1期の最終年度が始まった阿部守一知事の支持率は「支持する」37.8%、「どちらかといえば支持する」47.7%を合わせ85.5%に上る。前回の「阿部県政3年」調査(2013年8月)に比べ1.3ポイントアップ、10年の知事選直後の調査からは一貫して80%超を維持している。年代、職業、地域別でも高い支持率に変わりない。不支持は全体で前回と同じ12.8%。

しかし個別の具体的な施策では課題が見られる。新設する県立大学は構想を「見直した方が良い」と「このまま進めても良い」に意見が二分、東北信と中南信の食い違いが顕著だ。2年目を迎えた「長野県総合5か年計画」(しあわせ信州創造プラン)も「内容を含め知っている」のは14.6%にとどまっている。

また子どもの性被害を防ぐための方策として、県民が最も望んでいるのは「インターネットやスマートフォンなどの適切な使用方法の子どもへの教育」の44.3%で、県の専門委員会が提言した条例化は15.6%に過ぎない。



＜注＞田中県政当時は「なんともいえない」を郵送調査(〒)のみ選択肢として明示

	01年 10月	02年 9月	03年 9月	04年 9月	05年 9月	06年 6月	06年 8月	07年 2月	07年 8月	08年 4月	08年 7月	09年 4月	09年 9月	10年 4月	10年 8月	11年 2月	11年 8月	12年 4月	12年 8月	13年 4月	13年 8月	今回
支持する	36.6%	50.5%	29.7%	15.1%	11.6%	14.1%	35.9%	20.6%	19.6%	22.4%	17.8%	15.9%	16.0%	26.1%	40.5%	39.7%	35.5%	27.5%	32.2%	35.7%	41.0%	37.8%
どちらかといえば支持する	30.4%	34.2%	34.7%	29.5%	23.7%	33.9%	36.3%	40.7%	42.7%	41.3%	37.7%	40.2%	39.8%	31.8%	42.1%	43.7%	49.9%	55.2%	54.3%	50.4%	43.2%	47.7%
どちらかといえば支持しない	10.1%	8.0%	11.4%	17.5%	18.0%	25.9%	14.0%	24.6%	24.9%	24.6%	30.7%	28.7%	28.7%	21.3%	8.4%	9.3%	7.9%	10.6%	8.2%	9.1%	8.9%	9.0%
支持しない	10.7%	6.5%	11.7%	22.6%	36.0%	21.0%	10.3%	10.3%	12.0%	10.3%	12.3%	10.8%	13.2%	18.5%	4.5%	3.9%	2.7%	3.4%	3.1%	2.5%	3.9%	3.8%
なんともいえない・わからない	12.0%	0.8%	11.1%	11.0%	10.3%	5.1%	3.6%	3.8%	0.9%	1.4%	1.4%	4.4%	2.3%	2.4%	4.6%	3.4%	4.0%	3.3%	2.2%	2.3%	3.0%	1.7%
不明	0.2%	-	1.3%	4.3%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Ⅲ 調査の概要

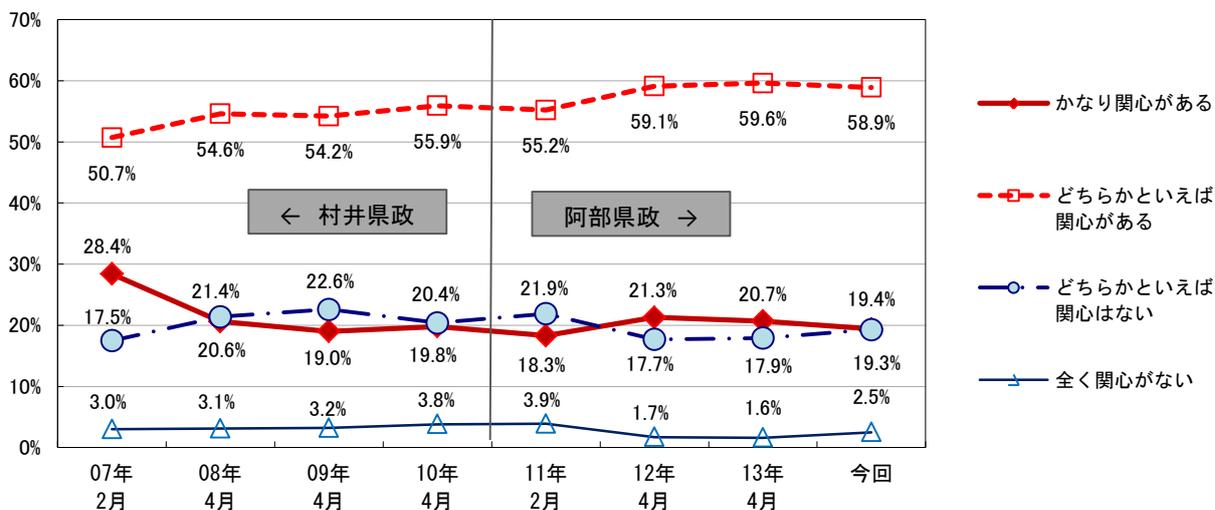
県政への関心

(問1)

◆「関心がある」78%

長野県政への関心は「かなりある」19%、「どちらかといえばある」59%を合わせて「ある」が78%と、「2013年度阿部県政スタート」調査とほぼ同じレベル。村井県政時代から一貫して高いレベルを保っている。

関心は20～40代より50代以上が高い傾向で、70歳以上は85%に達する。20代は「関心がない」が3割を超える。



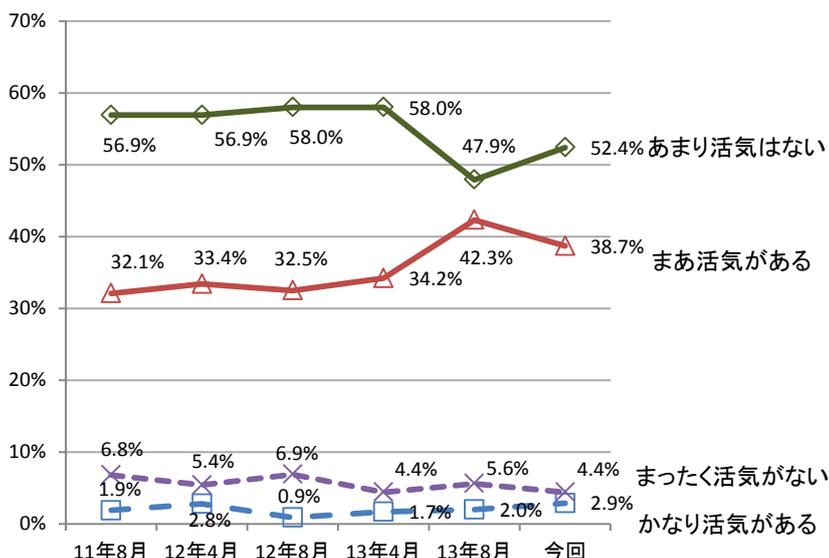
長野県経済や暮らし向きの現状

(問2)

◆「活気がある」微減の42%

県内の経済や暮らし向きへの受け止めは「阿部県政3年」調査(昨年8月)で、「まあ活気がある」と「かなり活気がある」を合わせ44%と上向いていたが今回は微減の42%。それでも過去6回の調査の中では2番目の高さだ。ただ「活気がない」との現状認識が過半数に上るのは変わりなく、特に20～40代と東信は6割を超えている。

主な属性で「活気がある」が半数超は70歳以上と農・林・漁業、無職。



◆県総合5か年計画、「内容を知らない」85%

阿部県政が2013年度からスタートさせている「長野県総合5か年計画」(しあわせ信州創造プラン)を「内容も含めて知っている」15%、「計画の内容は知らない」51%、「まったく知らない」34%と全体ではまだ浸透していない。ただ昨年春から3回の調査を比較すると「内容も含めて知っている」が微増、「まったく知らない」が減少傾向で、名前は徐々に広まっていることがうかがえる。

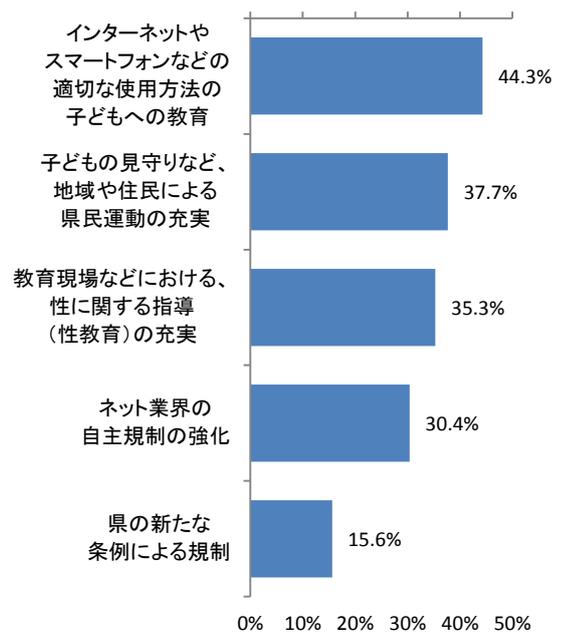
男性より女性、若い年代ほど「知らない」状況は前回調査(昨年8月)と同様だ。



◆子どもの性被害を防ぐ方策、「インターネット使用 適切な教育を」

県の「子どもを性被害等から守る専門委員会」が3月、「淫行処罰規定」の条例化を含む具体策を知事に提言した。子どもの性被害を防止するため今後取り組むべき方策(2つ以内選択)を聞いたところ「インターネットやスマートフォンなどの適切な使用方法の子どもへの教育」が44%と最も多く、「子どもの見守りなど、地域や住民による県民運動の充実」38%、「教育現場などにおける、性に関する指導(性教育)の充実」が35%で続く。「県の新たな条例による規制」は16%で、5つの選択肢の中では一番低い。

性別や年代別、地域別で見てもほとんどが「インターネットなどの適切な使用方法の教育」を一番に挙げている。「県民運動の充実」は高齢者に要望が強い。



◆県立大学構想、「見直し」「進める」で割れる

県短期大学を4年制化して新設する県立大学構想に異論があるなかで、県が2月県会で施設関連費用を可決して進めていることについて「見直した方がよい」46%、「このまま構想通り進めてもよい」43%と賛否が割れた。

地域差が大きく東北信は「このまま進めてよい」が優位だが、中南信は「見直し」が多数を占める。とりわけ松本市は「見直し」が63%に上る。



◆信州ブランド発信へ東京に活動拠点、7割近くが期待感

県がこの夏信州ブランド発信の活動拠点として東京銀座に「しあわせ信州シェアスペース」（仮称）を、今年度3億3千万円余の予算で整備することへの期待感を聞いた。「期待する」32%、「少しは期待する」36%を合わせ3人に2人が期待している。

とりわけ農・林・漁業は「期待する」だけで44%（全体で77%）と、信州の農畜産物アピールを強く望んでいるようだ。



◆信州山の日、「知っている」は半数

県が「信州山の日」を7月第4日曜日に制定したことを「知っている」49%、「知らない」51%と認知度が拮抗した。男女差が大きく男性は「知っている」が57%に対し女性は43%にとどまる。また若い年代ほど「知らない」傾向で、30代以下は3人に2人以上だ。地域別では南信が「知らない」60%で、他の3地域との落差が目立つ。

県は山岳高原観光課を新設し、「信州の山」を盛り上げていく1年にするとしている。

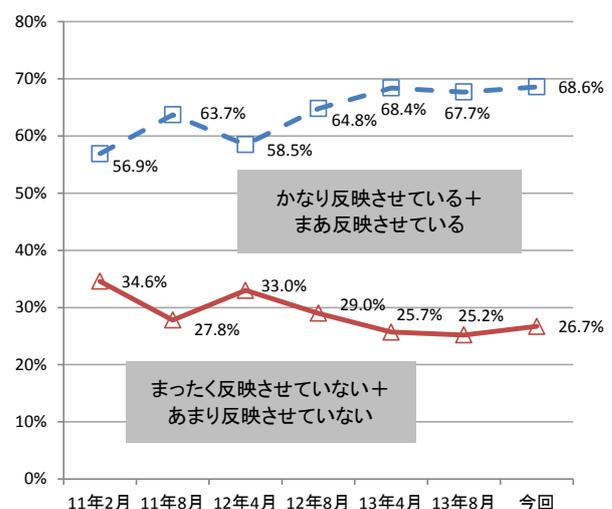


阿部県政と県民のかかわり (問4)

◆「県民の意見反映」今回も7割近く

阿部県政が県民の意見を「かなり反映させている」11%、「まあ反映させている」58%と知事の姿勢に肯定的な答えが7割近い。これは「阿部県政2年」調査（12年8月）からほぼ同じ水準を維持している。特に70歳以上（全体で75%）と農・林・漁業（同87%）は一際高い。

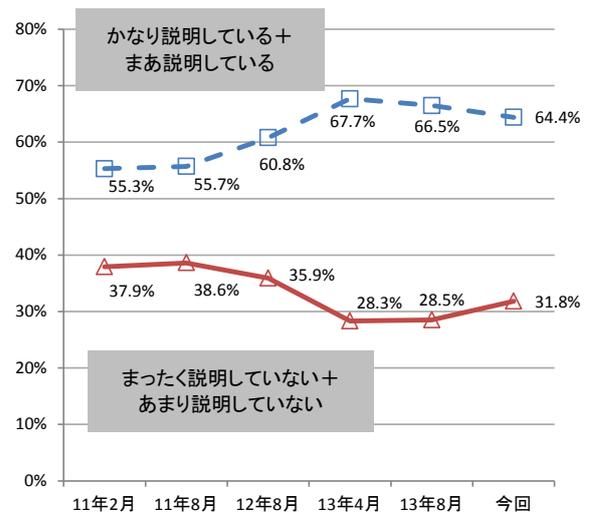
ただ役員・管理職・自由業だけは「反映させていない」が多数の59%。



◆「県民に説明している」64%

阿部知事が自分の考えや政策について県民に「説明している」と思っている人は全体で64%。前回調査より2ポイント余の減少で「県民の意見反映」と同様、大きな変化は見られない。

「説明していない」と思っている人が4割を超えているのは、職業別で現業系・サービス系の勤め、役員・管理職・自由業だけだ。



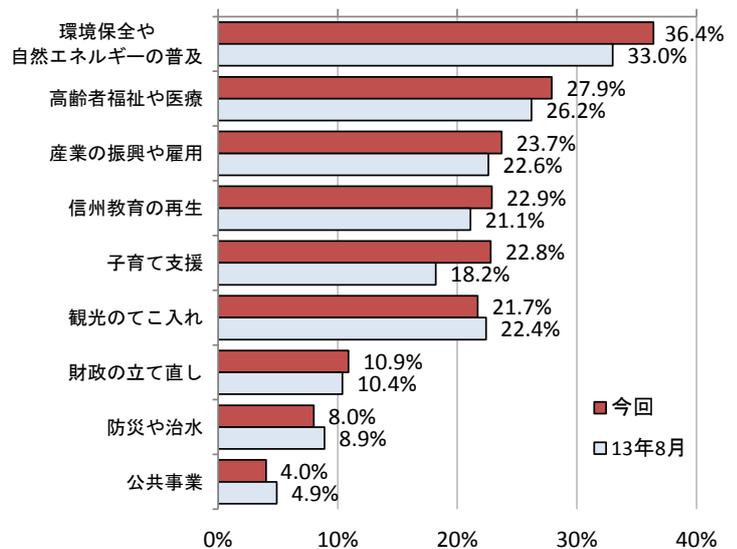
評価している阿部知事の政策

(問5)

◆「環境保全や自然エネルギーの普及」がトップの36%

阿部県政で評価している政策を3つ以内に絞り選んでもらった。トップは「環境保全や自然エネルギーの普及」の36%、次いで「高齢者福祉や医療」28%、「産業の振興や雇用」24%で上位3項目は、昨年8月の「阿部県政3年」調査と同じ順番だった。「信州教育の再生」と「子育て支援」が23%で並び、僅差で「観光のてこ入れ」22%が続く。

20代が「観光のてこ入れ」(31%)、70歳以上は「高齢者福祉や医療」(39%)を1番目に挙げている。



県議会の改革姿勢

(問6)

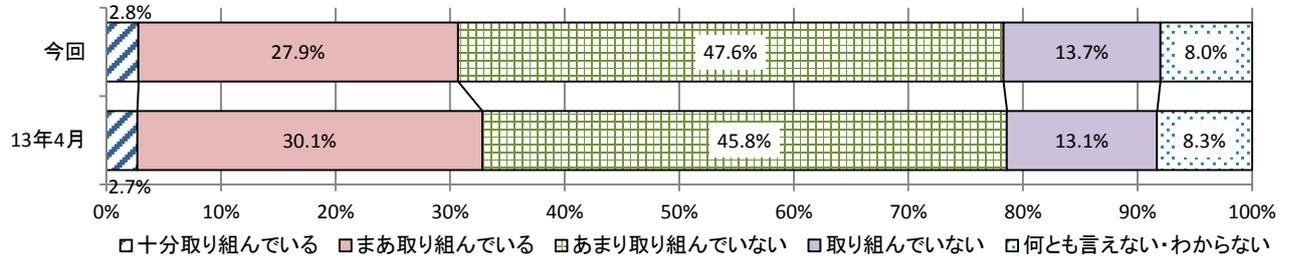
◆「取り組んでいない」が6割

県議会が定数削減や報酬の見直し、議会の開催方法などの改革に取り組んでいると思うか尋ねたところ「あまり取り組んでいない」48%、「取り組んでいない」14%を合わせて60%以上が厳しい評価だった。「十分取り組んでいる」3%、「まあ取り組んでいる」28%で肯定的な人は3割余。昨年の「2013年度阿部県政スタート」調査に比べ2ポイント厳しい数字だ。

厳しい評価は各層とも共通で、40代と職業の事務系・技術系の勤め、役員・管理職・自由業は「取り組んでいない」と思っている人が7割を超す。

支持政党別でも大半が「取り組んでいない」と見ている。

県議は来春任期満了を迎えるが、選挙区・定数の見直しは2期にわたり見送ることになっている。



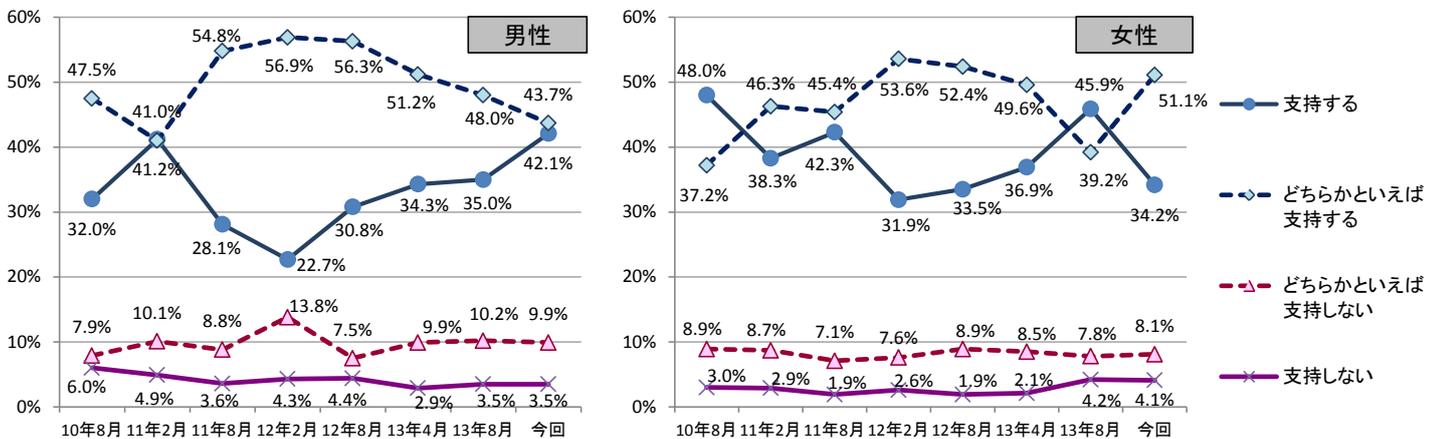
阿部知事の支持率 (問7)

◆いぜん全地域で80%以上

阿部知事の支持率は、調査のポイントで示したように全体で85.5%。男性85.8%、女性85.3%で男女差がないものの、男性は「支持する」が前回より7ポイントアップし、支持が強まった印象だ。各層ともほぼ80%以上の支持率を確保しており、過去の調査で高かった70歳以上は「支持する」だけで55.5%、農・林・漁業も50%に達する。

地域別では南信の88.4%を最高に北信、東信、中信でも80%を超えている。支持政党別でも無党派を含め全部が過半数、共産党支持者も支持が優位となっている。

「支持しない」は全体で12.8%、20%を超えたのは20代のみだった。



◆年代別では

